

武雄市立武雄中学校学校便り

叶武



NO. 18 令和3年1月8日
〒843-0024
武雄市武雄町大字富岡11606番地
TEL 0954-22-4105
文責 校長 熊野辰未

学校教育目標 「高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成」

《あけまして おめでとうございます》

明けましておめでとうございます。保護者の皆様、今年も昨年同様本校の教育活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

14日間の冬休みが終わり、本日から二学期後半が始まりました。冬休み中に大きな事件、事故もなく、一人も命を落とすこともなく、さらに全国的に10代の新型コロナウイルス感染が拡大している中、本校では幸いにも一人の感染者もなく、本日生徒たちが元気に登校してくれて、大変嬉しく思います。年の初めは、決意を新たにできる、生まれ変わることができる大切な節目です。子どもたちは、それぞれに「今年は・・・」と心に期したものがあると思います。その気持ちを忘れずにその実現に向けて努力を続けてくれることを願っています。本日のリモートによる集会での話の内容を掲載します。

明けましておめでとうございます。この冬休み期間中大きな事件、事故もなく、本日みなさんとこうして元気に再会できたことを何よりのお年玉と思い、喜ぶたいと思います。

さて、56、75、この2つの数字はどんな数でしょう。56は、明日から3年生の卒業式の日までの日数。そして、75は、令和2年度の修了式の日までの日数です。いよいよ学年のまとめの時期となりました。とりわけ3年生にとっては、中学3年間のまとめと自分の進路を決定するための大切な日々となります。体調をしっかりと整え、希望進路の実現に向けて精一杯努力していくことを期待します。

また、1、2年生も進級を前にして、恥ずかしくない先輩となるための基礎をしっかりと固める大事な日々となります。みなさんが、何事にも悔いを残さないように全力を出してくれることを願っています。

さて、みなさんは、毎朝生徒信条を斉唱していますよね。読み上げてみます。

「笑顔であいさつ 共に尊び 輝く学校で 今日自分を磨きます」

先輩たちは、素晴らしい生徒信条を残してくれたと思います。

福岡県宗像市出身で、出光興産株式会社の創業者である出光佐三氏をモデルとした「海賊と呼ばれた男」という映画の中で、主人公が発した言葉に「人間社会は、人間が支配している。その中で

一番大きな働きをするのが、信頼と尊敬で結ばれた真の和の人間集団の働きだ。」というのがあります。武雄中学校も人間社会、集団の一つです。みなさんが、信頼と尊敬で結ばれたら最高の集団になるであろうし、すばらしい結果を残すことができるものと思います。期待しています。

次に、学ぶということについて話をしたいと思います。1年生の入学式の式辞の中で、「『勉強する』『学ぶ』ということは、教科だけでなく、磨かれていない自分の中のすばらしい資質や能力を磨くことです。自分をもっと自分らしく、もっと魅力的に、もっと素敵に、もっと優しく、もっと勇氣ある人間になるために学ぶのです。自分の中に眠っているさまざまなすばらしい資質や能力を磨き、輝かせることによって周りの人を少しばかり幸せにし、世の中を良いものにしていくために学ぶのです。自分に与えられたすばらしい能力を呼び起こし、夢の実現に向かってがんばってください。」と話しました。

また、みなさんは、あらゆる可能性を秘めた原石です。その原石を磨きそれぞれの持っている個性、能力を輝かせたいものです。「磨く」とはどういうことか。「こすって光沢を出したり、きれいにしたりする。」「美しく作り飾る。」「いっそう輝かしくする。」などの他に「技芸などの練習に励む。上達しようとする。」といった意味もあります。学校での学びは、生涯にわたって自分自身を磨いていく始まりです。

みなさんは、4月の誕生石でもあるダイヤモンドという宝石を知っていますね。とても美しい宝石です。でも始めから美しいわけではありません。山の中にある鉱石であって、天然では最も硬い石です。これは磨かないと美しくなりません。ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨けません。ダイヤモンドを粉にして、丸い金属板に水で溶いたダイヤモンド粉末をまぶし、それを回転させて磨きたいダイヤモンドを押しつけて磨いていきます。磨かれたダイヤモンドは美しい光を反射するようになります。でも一つの面だけ磨いても美しく見えず、いろいろな角度に面を磨くからこそ、光が反射して美しく輝いて見えるのです。人も同じです。どんな人にもすばらしい個性や能力があります。しかし、個性や能力も磨かないと光りません。人もダイヤモンドも同じです。人は人でしか磨けません。自分から進んで多くの人と関わり、その関わりの中で多くのことを学んでこそ磨かれるのです。多くの人々の考えを学ぶことでたくさんの面が磨かれ、人として輝くのです。たくさんの友達、たくさんの先生、たくさんの地域の方々、多くの人たちと自分から進んで声をかけて関わっていくことです。時にはぶつかる中で、人として磨かれ、素晴らしい個性や能力が輝いていきます。自分のよさを認識するとともに、相手のよさを尊重し、より良い人生とより良い社会を築いていくために、自分を磨いて行ってほしいと思います。

「その時、日本は佐賀を見ていた。佐賀は世界を見ていた。あなたは今、何をしていますか？」覚えていませんか。2年前は、明治維新150年を記念し、「肥前さが幕末維新博覧会」が開催されました。その明治維新に関連することですが、武雄出身の人の話をしたいと思います。

みなさんは、この写真をご存知ですか。歴史の教科書で見たことがあると思います。これは、明治初の岩倉遣欧使節団の岩倉全権大使と副使の4人の写真です。この写真には、5人の人物が写っています。みなさんの中には知っている人もいるかと思いますが。写真の一番左の人は、長州藩出身の木戸孝允(39)、髷(まげ)を結っている和服の人は、全権大使の岩倉具視(47)、その右側に立っている人が、長州藩出身で



(出典 新編 新しい歴史 (東京書籍)・山口県文書館蔵)

最初の総理大臣となった伊藤博文(31)、一番右側が薩摩藩出身の大久保利通(42)です。左から2番目のこの人は誰でしょう。左から2番目の人は、実は佐賀藩武雄領出身の人です。名前は、山口尚芳(やまぐちますか)(33)(通称は範蔵)です。武雄町の花島出身です。今の花島公民館が建てられているところに家があったそうです。

「肥前さが幕末維新博覧会」でも勉強したと思いますが、明治維新の時、佐賀藩出身には7賢人と言った素晴らしい人材を輩出しています。佐賀藩を雄藩へ躍進させた名君と言われる鍋島直正、内閣総理大臣に2度就任し早稲田大学を創立した大隈重信、「正義人道の人」として尊敬された外務卿であった副島種臣、司法制度を確立した初代司法卿であった江藤新平、札幌の礎を築いた「北海道開拓の父」と言われる島義勇、日本赤十字社の生みの親と言われる佐野常民、教育制度の基礎を作った初代文部卿であった大木喬任らの7名の名前をよく出されますが、武雄出身の山口尚芳は負けずとも劣らない人物なのです。

幕末の薩長同盟の成立につくし、江戸無血開城に立ち会っています。1871年に外務少輔となり、先ほどの岩倉遣欧使節団の4人の副使の一人としてアメリカ、ヨーロッパの国々を歴訪しています。

また、江藤新平が佐賀の乱を起こしたときに武雄からも64名の兵士を派遣していたために、武雄領主の鍋島茂昌(しげはる)が新政府軍に提出する予定の謝罪文を添削するなどして武雄鍋島の罪を免ずるために努力しています。また、新政府においては、1881年には初代の会計検査院の院長に就任、元老院議員や貴族院議員などを務めるなど、日本の中心にあって政府の要職を務め、活躍しました。明治27年、1894年6月12日に死去しています。

郷土の偉大なる先駆者「山口尚芳」の功績を称える顕彰が、亡くなられて百十余年になりますが、「範蔵祭り」として継承されてきています。現在は、その命日が6月12日で農繁期でもあるので、年明けの1月12日に行われています。今年もコロナ禍の中ではありますが、役員の皆様により今年12日に行われます。教科書に掲載されるような武雄の大先輩がいたということを知っていてほ

しいし、誇りに思ってもらいたいと思います。

現在のグローバル化の進展や AI やロボットなどの技術革新によるデジタル社会への大きな社会変化は、まさに明治維新を超える大きな改革の時代と言えます。重要なことは「主体的」という言葉です。目立たないように気を遣うのではなく、先生や家族から言われたから、仕方なく勉強するのではなく、これからの時代を切り開いていくのに大切なことは、**自ら学び、自ら考える意志と行動力**です。学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを感じながら自らの能力を引き出し、新しい時代を切り開いて行ってもらいたいと思います。志を持って挑戦してください。

みなさんは、人間だけど獣（けもの）には簡単になれます。どういう獣になれるかという。「なまけもの」という獣には今すぐにでもなれます。「なまけもの」にならないための一番大切なことは、自分自身の中にあります。

自分の中にある甘えに勝つことが最も重要なことかと思います。

みなさん一人ひとりが、新年の新たな決意を一つでも実行し、自分を磨き、生き生きと輝いてくれることを期待します。

みなさん、まずは3月まで元気にがんばりましょう。